

おおむた

輝人き

紙芝居 三池座 代表

池田 一徳 さん



紙芝居を通して
皆さんから元気を
もらっています



拍子木を鳴らして紙芝居のスタートです(上) / 紙芝居も木枠も手づくりです(下)

92歳になった今でも、皆さんの前で紙芝居を演じています。紙芝居を通して多くの方と接していることが、元気の秘訣です。

紙芝居との出会いは、子どもの頃。毎週紙芝居を観に行くのが楽しみでした。その後、熊本大学教育学部の教授時代に、同大学附属幼稚園の園長を併任したときに園児たちに紙芝居を読み聞かせたところ、子どもたちは目を輝かせながら真剣に聞き入ってくれました。保護者の方にも喜んでいただけ、うれしかったですね。退官後、三池地区公民館で紙芝居の講座の講師を務めたことがきっかけで本格的に紙芝居を始め、15年前に「紙芝居 三池座」を作りました。現在は、毎月石炭館で開催されている「石炭館劇場」の中で紙芝居を上演しています。

紙芝居という舞台を借りて芝居ができることですね。演じるからには、紙芝居に出てくる登場人物になりきれなければいけません。市販されている紙芝居はたくさんありますが、それでは自分の心が登場人物に入っていない。そのため、民話や伝説の中から題材を選んで自分で画を描いて紙芝居を作っています。これまでに100作ほど作りました。一作品の完成までに少なくとも1週間はかかりますね。それでも、手間をかけて作るからこそ、登場人物の気持ちになつて演じられるのです。

紙芝居を描くときは、登場人物の「絆」の部分を丁寧に描くようにしています。私が演じる紙芝居を観てくださった方たちが、家族や友人など大切な人たちとの絆をもっと愛おしく思ってもらえるようになってほしいですね。

編集後記

▼広報おおむたの作成に携わって早10年。これまで世界遺産登録、ジャーフoundation、豪雨災害など、大きな出来事がたくさんあり、どうすれば伝わりやすい紙面作りができるか模索の日々でした▼このたびは職場体制の見直しに

より、今までと違う視点で広報おおむたに携わることに▼取材に出かける機会が少なくなりそうですが、これからも「〇〇は会議室で起きてるんじゃない。現場で起きてるんだ!」の気持ちを忘れずにいきたいです(真)

気軽にチャレンジ! ニューススポーツ スカットボール

Vol.3



マットの上にスカット台を乗せて、ボールをスタートラインからスティックで打ち、スカット台の得点穴に入れて点数を競うゲームです。

得点穴に入ったボールはそのまま、第5打まで交互に打撃します。

用具の貸し出しは無料です。

市民体育館 (☎53-6003)

スポーツ推進室 (☎53-1503)

で行っています。

スポーツで人と人との絆をつくり
健康で活気あふれる都市づくり おおむた